

Injury Alert (傷害速報) 類似事例

バスチェアによる女兒の外陰部外傷 (No.64 女兒の会陰部外傷の類似事例 1)

事 例		年齢：11 歳 2 か月 性別：女兒 体重：37.1 k g 身長：145.7 c m
傷害の種類		外陰部打撲
原因対象物		バスチェア (図 1, 2)
臨床診断名		外傷性外陰部血種
医 療 費		606,780 円
発 生 状 況	発生場所	自宅の浴室
	周囲の人 ・ 状況	姉 (15 歳) と入浴中、洗い場で転倒
	発生年月・ 時刻	2019 年 10 月 X 日 (水) 午後 8 時 30 分
	発生時の 詳しい様子 と経緯	姉と入浴中、姉が先に上がり脱衣所に出た。本児のみ浴室内の洗い場に残り、備え付けの棚に乗っていたものをとろうとしたところ、足元が滑り、プラスチック製のバスチェアの凸状の突起部 (図 1, 2 の矢印部分) の上に尻もちを着く形で転倒した。直後はあまり痛みが強くなかったため、ふつうに浴槽に浸かった。入浴後に陰部からの出血に気づき、ひとりでトイレ内に籠っていた。出血が止まらないうと泣いていたところを、午後 9 時 30 分に仕事から帰宅した母が発見した。外陰部が大きく腫れあがり、出血が持続していたため、同日救急指定病院を受診したが、鎮痛薬を処方され、経過観察となった。 翌 X+1 日には腫れが増強し、局所を冷やしながら、ほぼ臥床したままで過ごした。X+2 日に近医小児科を受診し、加療目的に医療機関へ紹介となった。

治療経過と予後	右大陰唇にテニスボール大の血腫を認めた（図3）。表皮の一部には、矢状方向に約1 cm裂創があったが自然止血していた。血腫による痛みで、閉脚できず、独歩はできない状態であった。血圧などバイタルサインは安定しており、血液検査でのヘモグロビンの低下もなかった。小児科に入院し婦人科にコンサルトの上、局所冷却と抗菌薬入り軟膏の塗布に加えて、止血剤および抗菌薬（CEZ）の静注を行い、保存的に加療を開始した。 入院5日目（X+6日）まで血腫の改善を認めなかったため、婦人科医師により全身麻酔下に血腫除去術を行った。術前に造影CTを撮影し、血腫内への造影剤漏出がないことを確認した。血腫を覆う皮膚は一部壊死しており、用手圧迫で自壊した。自壊部から上下に切開延長し、凝血塊80gを除去した。動脈性の出血はなかった。電気メスで出血点を止血した。ドレーンは留置せず、埋没縫合で閉創した。入院7日目（X+8日、術後2日目）から歩行可能となった。 術後、月経が重なり、性器出血が続いたため、入院を継続した。（初経後2度目の月経で本人も母もあまり分かっていなかった。）入院10日目（X+11日、術後5日目）に軽快退院した。X+15日、術後9日目に小児科および婦人科の外来で診察し、経過が良好であることを確認の上終診となった。
----------------	---



図1, 2. 対象となったバスチェア（矢印は尻もちをついた場所）



図3. 医療機関受診時